

ノーバスネット 3年間の活動

全国ブラックバス防除市民ネットワーク

2005年11月に、それぞれの地域で希少魚類や在来生態系などを守りたい・取り戻したいという思いで活動している団体により「全国ブラックバス防除市民ネットワーク」(ノーバスネット)が設立され、3年間が経過しました。

ノーバスネットの目的は、水生生物の生息環境を維持・回復するために、
ブラックバス等の外来魚防除の必要性を普及広報すること
外来魚に関する情報の交換・蓄積、保全技術の開発などを行なうこと
外来魚のいない水辺を目指して防除などの実践活動をする事
各地の市民団体に呼びかけ、活動の輪を全国に広めること

当初15団体で発足したノーバスネットには、現在、31団体が参加しています。
この3年間の主な活動は、次のとおりです。

1. 「全国一斉ブラックバス防除ウィーク」(ノーバスウィーク)の実施
ブラックバス等の防除活動(駆除、密放流防止パトロール、防除普及キャンペーンなど)
2006年: 29行事 93団体、2,405人の参加
2007年: 31行事 110団体、3,809人の参加
2008年: 33行事 120団体、4,128人の参加(集計中)
2. 会員団体との共催によるシンポジウムなどの実施
2006年1月 第1回外来魚情報交換会(琵琶湖を戻す会)
2006年12月 シンポジウム「ブラックバス駆除と水田魚道による自然再生」
(NPO シナイモツゴ郷の会、ナマズのがっこう)
2007年1月 第2回外来魚情報交換会(琵琶湖を戻す会)
2007年1月 市民参加型ブラックバス防除の研修会 伊豆沼・内沼の生態系復元を目指して
((財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
2007年5月 シンポジウム「外来生物と日本の文化 釣り文化について語る」
(立教大学ウェルネス研究所、生物多様性研究会)
2007年9月 ブラックバス問題シンポジウム「『日本のガラパゴス』琵琶湖からの発信」
(立教大学ウェルネス研究所、生物多様性研究会)
2007年10月 シンポジウム「水辺の自然再生をめざす市民活動 外来魚対策と在来魚復元」
(NPO シナイモツゴ郷の会、ナマズのがっこう)
2008年1月 第3回外来魚情報交換会(琵琶湖を戻す会)
2008年3月 三ツ池フォーラム「ストップ・ザ・外来魚2008」(神奈川県立三ツ池公園を活用する会)
2008年11月 シンポジウム「魚類復元による田園の自然再生」
(NPO シナイモツゴ郷の会、ナマズのがっこう、立教大学ウェルネス研究所)
2009年1月 第4回外来魚情報交換会(琵琶湖を戻す会)
3. 会員団体によるブラックバスなどの防除活動の支援
地球環境基金、全国内水面漁業協同組合連合から助成による
4. ブラックバス等駆除実施市民団体調査(2008年4月)
市民団体88団体(うち漁協が中心的役割を果たしているもの21団体) 水土里ネット164団体
5. 市民版「ブラックバス防除ガイドブック(仮称)」の発行(2009年3月予定)

今後、市民の連携が一層大事だと思えます。

多くの市民団体にノーバスネットに参加いただいて、在来水辺の生きもので賑わいのある「外来魚のいない水辺づくり」に共に取り組んで参りましょう。